

# NHK映像＋Sphere；新コンテンツのご案内



NHKの人気自然番組『ダーウィンが来た!』や『ジオジャパン』の番組映像とSphere地球儀の組み合わせで、「地球目線」で生きものの生態や日本列島の成り立ちをご案内する、

新しいコンテンツができました（計13本；各3～5分、計約50分）。

迫真の現地映像を見ながら、その地形や風土がどのように形成されてきたのか？を大陸移動や海流との関わりで理解する、あるいは地球温暖化や海洋酸性化、プラスチック問題によって生物がどのような影響を受けるのか？—美しいナレーションとともにお楽しみください。

Sphere開発チーム/ELP代表 竹村眞一

- A. 地球スケールで移動する生きものたち（クジラ、ジンベエザメ、渡り鳥など）
- B. 生物と地球環境危機（サンゴ、ホッキョクグマ、マグロ、サケなど）
- C. 地球目線でみる「日本」（流氷、日本列島とプレートテクトニクス、日本の恐竜）

# A.地球スケールで 移動する生きものたち

## 1) アリシューシャンマジック ～北の海の豊かさの秘密

北太平洋ベーリング海に、毎年ザトウクジラや何百万羽もの海鳥が集まる謎の海域があります。「アリシューシャンマジック」と呼ばれる、その生きものたちの奇跡の饗宴をNHK撮影クルーが世界で初めて捉えることに成功。では、なぜ北太平洋がこのような「豊穡の海」となっているのか？ Sphere地球儀でその理由を解説します。



## 2) ジンベエザメはなぜ毎年、 この場所に集まるのか？

普段は単独行動のジンベエザメが、年に一度カリブ海のある特定の海域に集まってくる。その秘密は「大陸移動」でメキシコやキューバが形成されてくる過程を見るとよくわかります。特に驚くのは「かつて南北アメリカはつながっていなかった！」ということ。



## 3) 北極と南極を往復する鳥？

パナマ地峡で南北がつながると、そこで海流が変化してメキシコ湾流が誕生。それがこの海域に、深海からの湧昇の栄養分をもたらすことに。生きものの生態と地形や海流、プレートテクトニクスとの関わりがよくわかるコンテンツです。



## 4) ヒマラヤを越える渡り鳥

羽田はその名の通り、いまでも渡り鳥たちの国際線ターミナル。春になると南太平洋から渡ってきて営巣するアジサシ。でも、その仲間地球の裏側・大西洋ではもっと長距離一なんと北極と南極を毎年往復します。また、雲も越えられないヒマラヤの高嶺を越える渡り鳥も（アネハヅル）。地球規模で移動する鳥たちのダイナミックな姿をご覧ください。



## 5) クジラの進化と南極の孤立

「地球の寒冷化」がクジラの進化を促した？そのきっかけが南極の孤立という大陸移動イベントだった？生きものの生態や進化とプレートテクトニクス、気候変動という、これまでまったく別々の分野だった研究成果がダイナミックに交差する、知の最前線を体感してみてください。



## B. 生きものたちに迫る 地球環境危機

白身魚のサケの身が赤いのはなぜ？その理由は、北海道の川を下って回遊する北太平洋の餌のプランクトンにある？さらにその海の恵みを故郷の川に帰って、森に届けるサケ。一方、最近サケの漁獲量が減っています。それと海水温の上昇との関係は？—環境変化と生態変化の関係を考えさせられる興味深いコンテンツです。



### 1) 深海にもぐるサケ？

北極の海水が減って、ホッキョクグマの生存が危ぶまれる？では実際に、どのくらい北極の海水は減っているのでしょうか？急激な極地の温暖化の原因は？アジア数十億人の水源地であるヒマラヤ・チベットの氷河に暮らすユキヒョウ（雪豹）の生存の危機は、そのまま人類の危機でもあります。気候変動の最前線にいる生物と人類に迫るリスクを可視化します。



### 2) 北極・ヒマラヤと 地球温暖化

沖縄では海水温の上昇に伴って、サンゴの白化が進行。でも台風が海をかき混ぜて、海水温を下げてくれるとサンゴが蘇る。そうしたダイナミックな地球のメカニズムが地球儀上に見える化されます。しかしさらに海洋酸性化という脅威が。私たちには見えにくい海の環境危機を、サンゴの産卵など美しい映像とともにご覧ください。



### 3) サンゴと海洋酸性化

海に流れ出したプラスチックゴミが、海の生物に脅威を与えるのみならず、すでに私たちに還って来ているとしたら？太平洋を横断するマグロの航跡を地球儀上に可視化すると、それが太平洋のゴミベルトと重なっていることがわかります。廃棄物問題やSDGsをいかに「自分事」として考えるか？—このコンテンツはそのヒントとなるはずです。



### 4) マグロとプラスチックごみ

## C. 地球目線でみた「日本」

北海道の早春の名物「流氷」——これも地球目線でみると日本固有の現象であることがわかります。そして、この現象を生み出す要因も、遠くシベリアの森に発するアムール川にある・・・。「流氷」という身近な現象から「地球のなかの日本列島」を見つめ直します。



### 1) 流氷は日本特有の現象？

いま日本で新たな恐竜の発見が相次いでいます。ブームのきっかけは2010年代に北海道で発見された「カムイザウルス（通称：むかわ竜）」です。でも厳密にいうと、恐竜が生きていた頃（6600万年前の絶滅以前）はまだ日本はアジア大陸の一部でした。あたかも恐竜が生きていた時代に舞い戻ったかのように、恐竜たちの生態をいきいきと描くNHK映像（CG）とともに楽しみください。



### 2) 日本の恐竜「むかわ竜」？

### 3) 日本列島の履歴書；その1

～日本海形成、弧状列島への道

ではアジア大陸から分かれ、日本が弧状列島として現在の姿になる過程はどのようなものだったのでしょうか？その分裂により「日本海」が誕生し、その海底火山や熱水噴出孔で金銀鉍脈などが形成されたことが、世界遺産の石見銀山や佐渡金山のもとになった？——火山列島の「災い」と「恵み」をダイナミックに描きます。



### 4) 日本列島の履歴書；その2

～いまも動き、変わりつつあるこの列島のダイナミズム

はじめは東西日本が「二本」に分かれていた、その間にフィリピン海プレートが嵌入。ここに集中的に送り込まれる海底火山やマグマの集積が、やがて富士山を生み出しました。また太平洋プレートとのせめぎ合いで、初めは平坦だった日本列島が「東西圧縮」され、現在の山がちな国土に。日本がいまの姿になるまでの波瀾万丈の人生の履歴書を、NHK『ジオジャパン』の映像とともに描きます。

